

平成7年5月 9日

"民主主義が構築された時に平和国家が生まれ平和な世界ができる"

第20回 豊島区憲法記念のつどい

いのくち くにこ

上智大学法学部教授 猪口 邦子氏を講師に迎え、講演会を開催

9日、豊島区民センター（東池袋1-20）で、恒例となった『豊島区憲法記念のつどい』が開催された。今年で20回目。

豊島区では、昭和51年（1976）年以来、暮らしと憲法のかかわりかたについて考える機会にしようと、毎年、各界から講師を招いて講演会を開催している。

今年のテーマは『新しい国際社会と日本の憲法』。講師は「ポスト覇権主義と日本の選択」、「戦争と平和」（吉野作造賞受賞）の著者でもあり、国際政治学者として活躍されている上智大学教授の猪口邦子氏。

「憲法記念日が誕生日なので『憲法』というものには思い入れがありますが、今日は国際政治の観点から広く捉え、今の国際社会とそれを私達の身近なところに引き寄せた時にどういう課題を個人或は社会が負わなくてはいけないかを話してゆこうと思います」と会場に集まった約300人の聴衆を前にエネルギッシュな口調での講演が始まった。

「20世紀において起こった戦争の数は先史のそれを越えてしまっている。私達はそういう厳しい時代に生きています。戦争をしてきた国について調べてみると、民主主義国家でない国同志あるいはどちらかが民主主義国家でない国との間で起きている事が分かりました。民主主義が構築された時に平和国家が生まれ、平和な世界ができる。今、187か国のうち56%が民主主義国家になっています。明るい未来にむかっているのではないのでしょうか」と民主主義の大切さ、そしてそれを支えるのは私達市民なのだという事を熱く語っていた。

最後に国際交流のポイントを幾つか掲げて締めくくった。特に強調されていたのは最近失われつつある『謙虚さ』について。謙虚さを忘れず母国語をきちんと話すことができれば、外国語が話せなくても国際交流はできるのだそうである。

また、講演終了後には、3月10日の東京大空襲の"炎の夜"を広く伝え平和の橋渡しを、と強く願う早乙女勝元氏が自ら脚本化した『戦争と青春』（今井 正監督）が上映された。

問合せ 総務課 総務係